

備忘録～理事長の独り言①～

5月某日

園長交替のための理事会等の手続きはスムーズに進んで、4月からは新しい園長の下で新体制がスタートし、新しい支援課長や主任も張り切って仕事をしている。

それでも、子どもたちは私の顔を見ると依然として「園長、園長」と呼び掛けてくる。「理事長」と呼びかけるのは慣れていないだけでなく発音しづらいようだ。私自身も自分のことを「理事長」とは発音しにくい。そこで、中学生の子どもたちに、理事長に変わる適当な呼び方はないだろうかとの相談を試みた。そうしたら、「師匠」ではどうかという案を持ってきてくれた。理事長よりは言いやすいが、なんとなくムズムズして落ち着きはよくない。

しばらく、適当な呼び掛けの言葉を工夫したいと思っている。ボスとか、キャプテンとか、GGとか・・・「子どもたちからは、“ドン・ガバチョ”と呼ばれています」と自己紹介していた園長さんもいたなあ・・・

5月某日

私が事務局をしている、来月の浅虫ワークの案内をメールで送った。

第51回 浅虫カウンセリング・ワークショップ開催要項

青森の五月は咲き誇る花々の種類も多く、気温も穏やかで、一年で最も過ごしやすい帰結を迎えています。忘れてしまっはいけないことも多い人の世ではありますが、喉元過ぎればなんとやら、あれほど降り積もっていた雪の苦勞などきれいさっぱり忘れて今日この頃です。世間では「事業の承継」ということが問題になっていますが、私たちが「カウンセリング」ということで学習してきたことの「承継」はどのようになるのでしょうか。昨年に引き続き、下記のとおり「二泊三日の、世話人なし」でワークショップを開催いたします。ご都合のよろしい方は、どうぞご参加ください。

記

日時 令和7年6月27日（金）～6月29日（日）

受付開始は27日13時30分からで、終了は29日11時30分です。

対象 自分自身や他者が、変化・成長・発展していくことに、興味と関心がある方であれば、どなたでも歓迎いたします。

主催 青森カウンセリング研究会

会場 辰己館 青森市浅虫字山下281

コロナで2年くらい中断したが、昨年に続いて今年も開催する。参加者のほとんどはリピ

ーターで、固定化・高齢化している。新しい参加者があれば、とても嬉しい。

日本カウンセリングセンターで学んでいた工藤和仁（2019H31 年死去）先生が帰郷し、県内の有志に声を掛けて始めたワークショップである。

いろいろな方に世話人をお願いしてワークショップを開催してきたが、1993H05 年第 23 回から 2003H15 年第 32 回の 10 回は、76 歳から 86 歳の友田不二男先生に世話人をお願いして、一月に三泊四日で開催していた。友田先生は、2005H17 年 2 月に 88 歳でお亡くなりになったので、その最晩年の 10 年間をご一緒したわけである。

友田先生がお亡くなりになったあとは、工藤和仁先生を世話人として開催していたが、工藤先生が病気で参加できなくなってからは、世話人なしで開催してきた。コロナ以降の 2024R06 年からは、期間を二泊三日として開催している。

園長を退いたことで、時間的にも気持ちのうえでも余裕ができたので、この浅虫ワークのことについても、いろいろ書いてみたいと思っている。

5月某日

先日、九州の友人と話しをした。彼は県職員から大学の教員になって、この春定年を迎えた。恒例にのっとり最終講義を行ったそうだが、テーマは「児童虐待の世代間連鎖」だったそう。

戦争から復員してきて結婚した彼の父親は、長男として生まれた彼を、ことあるごとに殴って育てたそう。彼は、自分のことを「被虐待児」だと言った。父親が自分を虐待したのは戦争と軍隊生活の影響だろうと言った。そして、虐待の世代間連鎖を断ち切るために、自分は子どもを持たない選択をしたのだと言った。

古くからの友人なのだが、思い返してみると彼からプライベートな話を聞いたことがなかった。私の父も戦争に行き、私は父が復員してから生まれた長男だった。私は、子どもの頃父親から叩かれたという記憶がない。私の父親は戦前大学で心理学を学び、戦後は教員をしていたので、私を殴って育てなかったことに疑問を持ったことがなかったが、彼の話聞いて、私の父の教育方針も、戦争や軍隊生活が影響していたのではないかと思い始めた。

自分が叩かれたから叩くという選択も、自分が叩かれたから叩かないという選択も、いずれの選択にも、戦争の影響があったということだろう。

(了)